

第3次嘉麻市総合計画策定にかかる

市民ワークショップ結果報告書（完成版）

令和8年7月

1. 目的・概要

本ワークショップは、第3次嘉麻市総合計画（基本構想）の策定にあたり、令和7年度に実施した市民アンケートの結果や、そこから見えてきた課題を市民と共有した上で、「嘉麻市がこうなったらいいな」という意見・アイデアを出し合う場として開催した。

全体テーマは「嘉麻のここが好き。10年後も、ここで暮らすために。」とし、参加者が「好きなところ・大切にしたいこと」「10年後、良くなってほしいこと」を出し合った上で、理想の将来像を1文にまとめ、その実現に向けて「市民・地域ができること」「行政が行うこと」をバックキャストで検討する構成とした。

プログラム概要

次第	内容	所要時間
開会・あいさつ	総合政策課長あいさつ、ワークショップの流れ説明	約7分
市の現状の説明	嘉麻市総合計画策定審議会会長による説明	約10分
グループワーク	ワーク1：好きなところ・変えてほしいところ ワーク2：理想のミライを1文で ワーク3：実現に必要なこと	約85分
総評・締めの挨拶	策定審議会会長による総評、市長あいさつ	約10分

2. 実施概要

2-1 開催日時・会場

地区	日時	会場
①稲築地区	令和8年6月27日（土）10時～	稲築地区公民館
②碓井地区	令和8年6月27日（土）15時～	碓井住民センター
③山田地区	令和8年6月28日（日）10時～	山田生涯学習館
④嘉穂地区	令和8年6月28日（日）15時～	夢サイトかほ

2-2 参加者数

地区	参加者数（テーブル数）
稲築地区	21（A～E テーブル：計5 テーブル）
碓井地区	15（A～D テーブル：計4 テーブル）
山田地区	40（A～G テーブル：計7 テーブル）
嘉穂地区	36（A～F テーブル：計6 テーブル）
合計	112（計22 テーブル）

※スタッフ（総合政策課職員、ジャパン総研、関係者、マスコミ等）を除く

2-3 参加者属性

当日参加者アンケート（回答数 104 件、回答率 92.86%）の結果より、参加者の属性は以下のとおりであった。

設問	回答区分	割合
Q1 お住まいの地区	嘉穂地区	29.8%
	稲築地区	11.5%
	山田地区	39.4%
	碓井地区	12.5%
	市外	5.8%
Q2 年齢	40 代以下	19.2%
	50 代	24.0%
	60 代	23.1%
	70 代	20.2%
	80 代以上	13.5%
Q3 性別	男性／女性	50.0%／50.0%
Q4 参加経験	はじめて	54.8%
	参加したことがある	45.2%
Q5 今後の参加意向	ぜひ参加したい	35.6%
	機会があれば参加したい	60.6%
	あまり／全く参加したくない	2.9%
	その他	1.0%

3. 全体での意見の傾向・分析

(22 グループの「①嘉麻市の理想のミライ」「②市民・地域ができること」「③行政が行うこと」の記載内容を、記述内容からボトムアップでテーマを抽出して整理した。)

(1) ①嘉麻市の理想のミライ

最も多く見られたのは「自然環境の豊かさ」を軸にした将来像で、稲築 B・D、碓井 C・D、山田 D、嘉穂 A・E など、複数の地区にまたがって共通して挙げられていた。「自然に愛されている悦びがひびきあう〜」(碓井 C)、「本物の自然を守り活かす」(嘉穂 A) など、自然を守る・活かすという方向性で一致している。

次いで多く見られたのが「子育て・子どもの安心安全」で、稲築 B・E、山田 B・E、嘉穂 C・E など、こちらも地区を問わず挙げられていた。子どもだけでなく高齢者も含めた多世代が安心して暮らせるまちという表現も複数見られ(山田 B・E・F)、世代を問わず「暮らし続けられること」への関心の高さがうかがえる。

そのほか、「人のつながり」(稲築 A・C)、「地域資源への誇り」(山田 A・D)、「食・グルメ」(山田 G、嘉穂 F)、「産業振興・人口減少対策」(嘉穂 D・E)といった意見も、いくつかのグループに共通して見られた。

傾向のまとめ

多くのグループが「自然」と「人・世代のつながり」を将来像の核として描いており、これは市民アンケートで示された「住み続けたい理由 1 位＝郷土・ふるさとであるから (50.7%)」「自然環境への肯定的評価 71.4%」とも整合する結果である。

(2) ②市民・地域ができること

最も多く見られたのは「自助・共助の実践」で、山田 A・E・G、嘉穂 A・B・E など、複数のグループに共通していた。「自分の健康を大事にし、自分でできることをドンドンやっていく」(山田 E)、「行政にすべてを頼らず、市民でできることはやる」(山田 A) など、行政依存でなく自ら動く姿勢を挙げる声が目立った。

次いで「イベントの開催・参加」(稲築 C、碓井 B・D、山田 A・F)が多く見られ、「あいさつ・声かけ運動」(稲築 C・E、嘉穂 C・F)、「清掃・美化活動」(稲築 C・D、山田 D・F)も複数のグループで挙げられている。

傾向のまとめ

市民・地域の役割としては、大きな仕組みづくりよりも「あいさつ」「清掃」「声かけ」「自助・共助」といった、身近で継続可能な行動が繰り返し挙げられている点が特徴である。

(3) ③行政が行うこと

最も多く見られたのは「広報・情報発信」で、稲築 A・B・E、碓井 B、山田 E、嘉穂 D・F など、地区を問わず広く挙げられていた。「市民への広報活動」（稲築 B）、「市民に寄り添い、意見をたくさん聞く」（嘉穂 F）など、行政からの発信だけでなく双方向のコミュニケーションを求める声も含まれる。

次いで「公共交通の維持・充実」（稲築 B、山田 C・F、嘉穂 F）、「財政効率化・行財政改革」（碓井 D、山田 F、嘉穂 B・E）が多く見られた。「市バスの小型化・小回り運行」（山田 F）、「経営感覚を常に考えながら行政も議会も」（嘉穂 B）など、限られた財源の中での効率的な運営を求める意見が複数地区に共通している。

そのほか、「道路整備」（碓井 A、山田 C・F）、「観光振興」（碓井 C、山田 F、嘉穂 F）も複数のグループで見られた。

傾向のまとめ

行政への期待としては、情報発信・対話の充実に加え、公共交通と財政運営という、市民アンケートで課題 1 位（公共交通 54.4%）・上位課題（財政への「心配」72.1%）として挙がっていた項目と方向性が一致する結果となっている。

4. 各地区での意見の傾向・分析

（１）稲築地区

「①理想のミライ」では、人のつながり（Ａ・Ｃ）、子育て・子どもの安心安全（Ｂ・Ｅ）、自然環境（Ｂ・Ｄ）がそれぞれ複数見られ、単一のテーマに偏らず多様な将来像が挙げたのが特徴である。

「②市民・地域ができること」では、あいさつ・声かけ（Ｃ・Ｅ）と清掃・美化（Ｃ・Ｄ）が複数見られた。

「③行政が行うこと」は広報・情報発信が多く見られ（Ａ・Ｂ・Ｅ）、全体傾向の中でも稲築地区での言及が特に目立つ結果である。「市民への広報活動」（Ｂ）、「情報収集（市民の声）」（Ａ）など、行政からの発信・市民の声の吸い上げの双方への期待が表れている。

（２）碓井地区

「①理想のミライ」は自然環境（Ｃ・Ｄ）が複数見られた。「便利のいい田舎（海のない糸島）」（Ａ）のように、自然の豊かさと利便性を両立させたいという表現も見られた。

「②市民・地域ができること」はコミュニティ交流・情報共有（Ｂ・Ｄ）とイベント開催（Ｂ・Ｄ）が複数見られた。

「③行政が行うこと」では企業誘致が複数見られ（Ａ・Ｄ）、他地区に比べて目立つ結果となった。「企業誘致（具体的な企業名を含む提案）」（Ａ）、「自然を活かす企業誘致／ICT 企業・リモートワークの獲得」（Ｄ）など、産業振興への期待が碓井地区で特に強く表れた点が特徴的である。

（３）山田地区

「①理想のミライ」は地域資源・誇り（Ａ・Ｄ）、子育て・子どもの安心安全（Ｂ・Ｅ）、多世代連携（Ｅ・Ｆ）がそれぞれ複数見られ、特定のテーマへの集中は見られなかった。なお、全体傾向では最も多く見られた「自然環境」は山田地区では Ｄ 以外にほとんど見られず、地区内での相対的な比重は他地区より低い結果であった。

「②市民・地域ができること」では自助・共助が最も多く見られた（Ａ・Ｅ・Ｇ）。「行政にすべてを頼らず、市民でできることはやる」（Ａ）、「自分の健康を大事にし、自分でできることをドンドンやっていく」（Ｅ）など、自律的な行動への言及が他地区より多い点が山田地区の特徴である。

「③行政が行うこと」は財政支援・自治体支持（Ａ・Ｇ）、行政・市民連携（Ｂ・Ｅ）、公共交通（Ｃ・Ｆ）、道路整備（Ｃ・Ｆ）がいずれも複数見られ、テーマが分散した。「白雲荘」（山田Ａ）のような地域の拠点維持や、322 号線の整備（Ｃ・Ｆ）など、山田地区特有の地域資源・インフラへの言及が複数見られた。

(4) 嘉穂地区

「①理想のミライ」は自然環境（A・E）、子育て・子どもの安心安全（C・E）、産業振興・人口減少対策（D・E）がそれぞれ複数見られた。特に「産業振興・人口減少対策」は他地区ではほとんど見られず、「国道322号線トンネル完成による交通量増加と人口減少対策」（D）、「嘉麻で働く人が増え、住民がお金持ちになる」（E）など、嘉穂地区特有の産業・雇用への強い関心が表れている。

「②市民・地域ができること」は自助・共助が最も多く見られ（A・B・E）、山田地区に次いで自律的行動への言及が多い地区であった。

「③行政が行うこと」は財政効率化（B・E）、地域資源・ブランド（B・C）、広報・情報発信（D・F）がそれぞれ複数見られた。「経営感覚を常に考えながら行政も議会も」（B）、「財政状況が改善する」（E）など、財政運営への言及が他地区に比べて目立った。

地区間の比較から見える特徴（まとめ）

- ・ 稲築：広報・情報発信への期待が特に多く見られる
- ・ 碓井：企業誘致への期待が特に多く見られる
- ・ 山田：自助・共助への言及が最も多く見られ、地域資源・拠点維持への関心も見られる
- ・ 嘉穂：産業振興・人口減少対策が他地区にはほとんど見られない特徴として出現、財政効率化への関心も見られる

5. 参加者アンケート結果

（当日参加者アンケート、回答数 104 件、回答率 92.86%。属性〔地区・年代・性別・参加経験・今後の参加意向〕は「2-3 参加者属性」に記載済みのため、本章では認知経路・満足度・自由記述を扱う。）

（１）本日の開催を知った経路（Q6、複数回答）

経路	割合
広報嘉麻（市報）	35.9%
嘉麻市ホームページ	13.5%
嘉麻市公式 SNS	11.5%
市職員からの案内	11.5%
友人・知人から聞いた	10.9%
勤務先からの案内	9.0%
学校・保育園・幼稚園等からの案内	3.2%
家族から聞いた	2.6%
その他	1.9%

（２）本日のワークショップの感想（Q7）

感想	割合
とても良かった	54.8%
良かった	37.5%
普通	5.8%
あまり良くなかった	1.0%
良くなかった	0.0%

「とても良かった」「良かった」を合わせて 92.3%が肯定的な評価であり、否定的な評価はごくわずかにとどまった。

(3) 自由記述 (Q8: 類似意見のグルーピング後)

自由記述は、内容の意味的なまとまりに基づき「①開催への評価と『対話の場』の意義（肯定的な意見）」「②参加層の拡大と広報への要望」「③市政への要望、意見等」の3つに整理されている。

①開催への評価と「対話の場」の意義（肯定的な意見）

普段話す機会のない人（市外からの参加者、学校の先生など）と意見交換ができたことへの評価や、「否定的な意見が出ず、わきあいあいとした話しやすい雰囲気づくりや、司会進行の進め方がよかった」という運営面への評価が見られた。また、「まちの将来を自分事として考える良い機会になり、市民の『地元愛』や『まちを良くしたい』という強い熱意を再認識した」など、ワークショップという手法そのものの意義を認める声や、「今後もこのようなワークショップや市民交流の機会を継続・増回してほしい」という継続開催を望む声も見られた。市長・副市長の参加への言及もこの区分に含まれる。

②参加層の拡大と広報への要望

「もっと高校生にも参加してほしい」「若者と交流できる機会を増やしてほしい」など、若年層の参加拡大を望む声のほか、「託児サービス」の要望や、市外への通勤・通学・転居者、これまで参加したことがない層へのアプローチの必要性が挙げられた。また「実施を知らなかった」という意見もあり、開催周知のさらなる工夫が求められている。

③市政への要望、意見等

市の財政・産業・福祉・教育などの「現在の状況」をもっと市民に詳しく知らせてほしいという声、2次総合計画の検証や各種資料の情報公開を求める声が見られた。そのほか、人口減少を見据えた継続可能なまちづくり、自助・共助による財政難の改善、嘉麻市を4ブロックに分けた戦略策定、食料自給率向上のための米作りの産業化など、まちづくりそのものへの意見・提案も寄せられている。

このほか、以下の具体的な提案・意見も見られた。

- ・都市計画の推進を求める声
- ・所有者不明の空き家・土地を行政が引き受けて活用し、市外からの移住者に提供してはどうかという提案、および特定施設（白馬れい園）における永代供養スペース整備の提案
- ・山田地区の生活利便施設（JA・銀行・温水プール・図書館等）の集積を活かした「老人特区」構想や、AI・ITが苦手な人にも配慮したコミュニティづくりの提案
- ・山田地区内をさらに細かい単位（熊ヶ畑・上山田・大橋・下山田）に分けたワークショップ開催の要望（前述の「4ブロック戦略」は市全体を対象とした意見だが、これは地区内をより細かく捉える視点として別に見られたもの）
- ・本ワークショップのような対話の機会を、市の各部署でも設けてはどうかという提案
- ・意見を聞くだけでなく、寄せられた要望を確実に実行してほしいという意見
- ・自治会・各種委員等の既存チャンネルでは、特に若い世代の意見が届きにくいという指摘、誰も

が自分事としてまちづくりを考えられるような啓発を行政に求める意見

- ・住民の力を引き出すような行政運営や、既存の資源を活かす施策を求める意見